

微細部品の乾燥自動化

島谷技研 装置と産ロボ連動

【東大阪】島谷技研（大阪府八尾市、島谷社長）は、メッキ処理を施した微細・微小部品の乾燥工程で産業用ロボットを用いた自動化システムを構築した。同社の主力はメッキ装置だが、メッキ後に「ぬれた」状態の部品を乾かす吸引乾燥装置の納入実績も豊富という。生産現場での省力化につながる産ロボと連動させた同装置を、電子部品や精密部品を手がける大手メーカーなどに売り込む。

島谷技研が手がける吸引乾燥装置は各種チップやコンデンサーなどの微細・微小部品にメッキを施した後、熱風で乾燥させる。従来、乾燥させるワーク（加工対象物）の設定

は手作業だったが、同装置に入れる部品は10ミリの程度にもなるため負担が大きかった。産ロボと連動する自動化システムでワークの搬出入や乾燥に伴う作業はすべて無人化で

きる。産ロボを含めて自動化対応可能な吸引乾燥装置の価格は100万円程度（消費税60万円程度）（同）。

（抜き）を想定し、年10台の販売を計画する。同装置単体の価格は260万円程度（同）。



島谷技研が構築した吸引乾燥装置への産ロボ連動による自動化システム

すでに同社の吸引乾燥装置を所持している場合や同装置と産ロボが両方ある場合でも、産ロボのソフトウェア対応など乾燥工程の自動化設定を請け負う。

島谷技研の吸引乾燥装置は2000年以降、累計約300台を販売した。吸い込み側に特殊フィルターを設けており、熱風は強制的にワーク間に通過させるため、10ミリの微細部品は約8分で乾いてしみる残りにくい。ワークは静止状態で乾燥させることで傷や変形もできず、大手メーカーから評価を得る。同社を78年に創業した島谷健会長は「部品のメッキ後は乾燥が必要。従来は、あまり対応できていなかったこの工程での省人化に貢献したい」と話す。